



令和3年3月12日(金)

第15回のしろ市民まちづくりフォーラム開催 編

15回目となる今年は、新型コロナウイルス感染症が収束していないことから、Zoom ウェビナーによるオンラインライブ配信を試みました。能代は木材高度加工研究所と能代河川国道事務所の2会場とし、一般参加席は設けませんでした。例年なら、遠方からおいでいただいた講師の貴重なお話を聞けるのは近郊の方々だけですが、今回は、北は北海道、南は島根県からの聴講がありました(申し込み 31 件、うち NPO・個人 3 件、企業・公的機関 28 件)。

テーマは、風景街道による持続的な地域みがき・地域づくり。秋田・能代で風景街道を持続させ、活性化させていくにはどうしたらよいかを考えます。話題提供は一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター代表理事 原文宏氏。本州以南の風景街道より先行して始まった北海道シーニックバイウェイの道路協力団体制度を活用した取り組み、センターの支援体制など、羨ましく思えるお話もいただきました。

ディスカッションでは、東北道の駅連絡会事務局長で菅江真澄と巡る秋田の道の事務局長 鏡啓紀氏，七日町通りまちなみ協議会副会長 庄司裕氏，アルプス塩の道交流会議事務局長 野本幸氏にルートの現状を紹介していただきました。①高齢化②資金難③風景街道への理解・認知④地域資源の活用⑤事務局の運営 といった課題を共有すると共に、各取り組みの中には課題解決のヒントがありました。

また、今回は活動団体・役所双方の現状を良くご存知の4人の方々ー秋田河川国道事務所調査第二課長 岩澤功英氏，岩手河川国道事務所調査第二課長 寺山雄大氏，一般社団法人シーニックバイウェイ支援センタールートコーディネーター 中村幸治氏，長野国道事務所計画課長 三浦淳氏ーにオブザーバーとして参加頂きました。

初めてのオンライン開催でしたが、登壇者・聴講者からは「有意義だった」「オンラインでも交流の場を増やしていけたら良いと思った」「大変興味深い内容だった」など、概ね高評価をいただきました。

多くの活動団体と課題や解決の知恵を共有し、活動の持続・推進をはかるため、来年度以降は従来方式を基本に、オンライン配信を併用して開催できればと考えています。

文：渡辺 千明



初めての開催方法にチャレンジ！



2月24日には登壇者と事前打ち合わせ、各会場との接続・動作確認、当日のオペレーションの確認を行いました。



木高研でのディスカッションのようす。トラブルなくスムーズに終えることができました(上)。聴講者と同じ画面表示のノートPCを用意し、モニターで確認、オペレーターと調整しながら進行了(下)。



能代河川国道事務所の参加状況。北羽新報の取材がありました。